

艦には「浄瑠璃」、菱田 岡永洗が挑んだのが「新で見えるが、繊細な描写には優さを身にまとう哀

春草には「常磐津」、下内」である。そうだとすれば、岡倉の意図したところ、すなわち、音の聞こえてくる絵を描くにはどうしたらよいかという問いに對しての、永洗なりの答えだったのかも知れない。(軸装、126・0×57・4寸、富岡永洗「新内(行灯)」(資料室蔵)



富岡永洗「新内(行灯)」

時からの知り合いである監督は、も成し遂げられなかったことを実「彼の伝記をいつかは撮らなければ現したことに変わりはない」にも政治的な意識を持つのは大切なことだと訴えたい。

化

文

スキーに親しみ、幼稚園の大会では優勝もした。しかし8歳だった1945年8月9日、旧ソ連が参戦。空襲警報のサイレンに追われながらリュックサックひとつで生家を脱出し、親戚を頼って函館で暮らし始めた。東京の大学を経て再び北海道で専門学校教員として働いてきた。

札幌五輪で旗門係にレヒを知るきっかけは72年の札幌冬季五輪。

た。教員になってからはスキー指導の資格を取得し、生徒たちを引率するようになった。

た。私はアルペンスキー女子大回転の旗門係で、選手がポールをきちんと通過したかどうかをチェックし、ポールが折れたら交換して斜面を整備する役割だった。この経験を通してスキー仲間が一

術を伝授したことを知った。北海道では12年2月に約3週間、旭川の師団で道内から集まった軍人や営林署、電力会社の人、教員らに指導したという。これらがスキーの日本への伝来とされる。

レヒが伝えたスキーは現在のスタイルとは多少異なる。最大の特徴は、いまは両手に1本ずつ持つストックが、1本だけ

が仕込まれ、それ自体も武器になった。当時のスキー板はサクランボなど固い木材を削った単板。軍靴のつま先部分だけを金具で板に固定し、かかととは板から離れるノルディック式だ。板の裏にアザラシの毛皮を張り、毛並みによる摩擦を利用して緩い斜面を登ることができたのもあった。

明治伝来、一本杖スキー

◇オーストリア軍人から伝授された滑走法を再現◇

原田 広 記

木製のスキー板を履

き、2層ある竹ザオの杖

を1本、両手で握って斜

面に突き立てながら雪の

上を滑る。100年以上

前、オーストリア・ハン

ガリー帝国の軍人、テオ

ドル・フォン・レルヒ

が日本にスキーを伝えた



レルヒにふんして滑走する筆者(手前)

が、樺太の幼稚園時代の

地元の教員らによる五輪

競技の手伝いに参加し

気に加え、そこで「スキ

ーの発祥を知っているか

？」「知らないな。調べ

てみなくては」というこ



抄

北海道日大 高校(現札幌 界を見たい)。緊張して

年生のときに 事務局長室を訪ねた。

「メキシコオ 気持ちは伝えると、浅利

さんにはひと言「我が校の

名譽だ。ぜひ行きなさい」

と力強く送り出してくれ

人

た。キャンブに参加する

ための口頭試験も

を覚える。

さて大きな期待を背負った

一家(両親と妹、弟の現役四

祖父の「敵討天下茶屋聚」が

歌舞伎座に出ていた。客席に

とんと出たこと

盛

貴

あ

え